

今週のメニュー

■[年頭挨拶](#)

塩ビ工業・環境協会 会長 齊藤 恭彦

■[年頭所感](#)

塩ビ工業・環境協会 専務理事 進藤 秀夫

■年頭挨拶

塩ビ工業・環境協会 会長 齊藤 恭彦

皆様、明けましておめでとうございます。平素は塩ビ工業・環境協会の活動に多大なるご理解とご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。新年にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

2020年は、全世界が新型コロナウイルス感染症との闘いに明け暮れた一年でした。今もなお、渡航制限やロックダウンなどによる生活や経済への影響は深刻です。しかし、経済対策やワクチン開発など、感染症の克服と経済の回復を両立させるための努力が世界中で続けられ、米国や中国・インド等では経済もV字回復しつつあります。

国内では、東京オリンピック・パラリンピックの一年延期や行政からの様々な行動自粛要請を受けて人々の意識も委縮しがちで、GDP成長率も2020年は対前年比マイナス5%台半ばとも予測されていますが、テレワークなど、withコロナ時代の新しい生活様式により、地方での生活の充実など、働き方や生活様式に質的变化の兆しがみられます。

塩ビ業界に目を向けますと、内需はやや頭打ちとなる一方、中国・インドなど、旺盛な世界需要にけん引されて、生産全体としては引き続き堅調に進展した1年でした。おかげ様で暦年の生産量は約160万トンと、塩ビ樹脂各社とも概ねフル稼働を維持、本年もこの状況を維持できると予想しております。

また、新たな生活様式の一環として、塩ビ製の板やフィルムが飛沫感染防止用の間仕切りに利用され、さらにフェイスガードや使い捨て手袋にも塩ビ製品が感染症対策製品として活用されるなど、新たな用途も含めて需要増につながりつつあることは喜ばしいニュースです。

以上のような背景のもと、当協会が注力して参りました活動の内容と本年の方針について簡単に紹介させていただきます。

まず広報活動では、2019年度に実施したPVC AWARD 2019の受賞作品や前述のwithコロナ製品、さらに豪雨被害の軽減に役立つ塩ビ製品などを、広報誌や協会Webサイト他でPRしました。また、小中学生に将来のキャリアを考えるためのヒントを与える教材「おしごと年鑑」で各種塩ビ製品やリサイクル性能を紹介、若年層への広報にも注力しました。次に、エコプロ、子どもとためす環境まつりなど、例年出展している各種展示会は、いずれもWeb開催への変更を余儀なくされましたが、VECとしてはこうした新しい時代の展示会に対応すべく、塩ビ製品やその特徴などを紹介する動画コンテンツを積極的に制作、出展しました。さらに、協会のWebサイトをリニューアルし、スマートフォン等のモバイル端末でも閲覧できるようにしました。引き続きコンテンツの充実を図り、塩ビ製品の優

れた特徴などを積極的にアピールして参ります。

次に建材関連では、樹脂窓の普及や窓周辺での新たな塩ビ製品の開発に注力しました。モデルユニットハウスを用いた性能試験で、樹脂窓の省電力効果や、シャッター、ブラインドなど窓開口部廻り建材の遮熱効果の実証を進めつつあり、塩ビ製品開発への期待が高まっています。さらに、樹脂製建具の促進耐候性試験の JIS 化や樹脂窓の防火認定合理化に向けた活動によって、ビルへの樹脂窓普及を促進する取り組みを進めました。2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて、省エネルギーについては今後益々関心が高まることから、優れた省エネルギー性能の訴求によって樹脂窓のより一層の普及を推進して参ります。

一方で、循環経済化の観点から昨今益々その重要性が高まるリサイクルに関しては、一昨年、東京大学清家先生を委員長に、樹脂窓に係わる団体様、メーカー各社様と共同で立ち上げた「樹脂窓リサイクル検討委員会」を中心に活動を進めております。2020 年度は、早くから樹脂窓の普及が進んできた北海道の関係者との情報交換や海外の実態調査を、Web 会議も活用しつつ行い中長期のロードマップ策定作業を進めています。また、世界的に重要視されつつあるケミカルリサイクルに VEC も対応すべく、例えば、プラスチック混合廃棄物からの塩ビ樹脂の分別や塩素の分離に関する基礎的な研究も支援できるよう、リサイクル支援制度の対象を拡大しました。

本年も、塩ビ樹脂が様々な場面で優れた性能を発揮し、健康で快適な暮らしの実現や環境問題の解決など、社会に大きく貢献し得る素材であることを広く知って頂き、より一層の普及を促進する活動を積極的に進めて参る所存ですので、引続き関係各位のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、塩ビ事業に携わっておられる各社の益々のご隆盛と、皆様のご健勝を祈念致しまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

■年頭所感

塩ビ工業・環境協会 専務理事 進藤秀夫

皆様、明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしく弊会へのご指導のほどお願い申し上げます。

昨年以来、いつ終わるとも知れないコロナ禍に世界中が脅かされておりますが、幸い、昨年（2020 年）の我が国塩ビ業界は、内需の減少を旺盛な輸出需要が補い、ほぼ 2019 年同様の生産量を維持できた 1 年となりました。また、この間、飛沫感染防止フィルムや抗菌シートなど、塩ビの透明性や防炎性、あるいは加工性、密着性、耐薬品性能等の優れた特長を活かした製品への需要も生まれてきました。VEC としても、With コロナ・After コロナ時代においても塩ビが優れた特長を生かして社会に貢献できることを、広報活動を通じて後押ししていきたいと存じます。

一方、コロナ禍と並び、昨年一層大きな流れとなってきたのが、地球温暖化問題や循環経済化など環境問題全般への対応です。欧州のグリーンディール政策はもとより、今年 1 月に誕生する米国バイデン政権も、地球環境問題重視の動きに歩調を合わせることは必然とみられます。我が国も、「2050 年にカーボンニュートラルを実現」というチャレンジ

グな目標を達成するための制度的仕掛けの検討が本格化しつつあります。プラスチック関連では、「プラスチック資源循環戦略」において設定された野心的なマイルストーンや、大阪 G20 サミット（2019 年 6 月）において策定された大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの「2050 年までに海洋プラスチックごみによる追加的汚染をゼロにする」との目標の実現のため、塩ビはもとよりプラスチック業界全体として真剣に対応していかねばなりません。

塩ビの場合、地球温暖化問題に対しては、塩ビ建材製品の長寿命性や優れた断熱遮熱性能・省エネ性能によって貢献することができます。樹脂窓はまさにその好例ですし、ブラインドやシェードなどの窓開口製品にも期待がかかります。こうした製品群については、その優れた省エネ性能を科学的検証結果を添えて積極的に紹介しつつ、これら製品の普及を図る場合における課題の克服を一つ一つ図っていく所存です。例えば樹脂窓については、耐候性・防火性・リサイクルなどが課題となりますが、まずは耐候性加速試験法に係る JIS 原案を 1 月末までには完成することとしています。

一方、循環経済問題に関しては、従来から対応してきた環境安全問題はもちろんのこと、一層のリサイクルの推進が求められます。これまで塩ビはパイプや農業用フィルム、床材などのインフラ系資材のマテリアル・リサイクルについて優れた実績をあげてきました。VEC は更なる取組として、需要が順調に伸び、かつ廃棄窓排出量の増加も見込まれる樹脂窓について、本格的なリサイクル体制構築の在り方に係る検討を進めているところです。また、今後、プラスチック全体のケミカルリサイクル体制構築や、さらには使い捨て容器・包装のリサイクル問題への対応を図るため、リサイクル支援制度を拡充し、塩ビと他のプラスチックの分別・分離技術や脱塩素技術についてもその探索や開発の支援を行える体制を整えたところです。これらを通じて、一層のリサイクル体制の構築に積極的に貢献して参りたいと存じます。

こうした様々な取り組みに当たっては、国内外の様々な団体と連携を図ることが必要です。VEC はこれまでも、川下の塩ビ関係団体の環境問題を扱う塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）との連携を始め、横断的なプラスチック業界間の連携として日本プラスチック工業連盟による各種活動への参加や、日本化学工業協会を始めとする化学業界 5 団体が事務局となっている海洋プラスチック問題対応協議会（JaMIE）共同事務局への積極的参加を引き続き進めて参ります。さらに、国際的な関係では、グローバルな塩ビ協議会の集まりである世界塩ビ協議会（GVC）やアジア太平洋塩ビ協議会（APVN）、あるいは欧米アジア等の各国の塩ビ協議会との間での連絡も密にして参ります。

こうした連携を中心に、サプライチェーンに関連するあらゆる関係者との協力を大切にしつつ、塩ビ業界としては、「塩ビそのものは、省資源であり、耐久性・加工性・着色性やマテリアル・リサイクル性能に優れた有用な素材である」ことを客観的かつ科学的ファクトに基づいてしっかりとわかりやすく発信し、関係の皆様のご理解ご協力を得られるように、努めて参りたいと思います。

情報発信に当たっては、従来も好評を博してきた PVC Award はもちろん、動画コンテンツなども積極的に蓄積・活用しながら、With コロナ、After コロナの時代にふさわしい発信方法を追究し、塩ビ製品の潜在性をさらに大きく発揮させるべく、微力ながら尽くしてまいる所存ですので、どうぞよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のますますのご発展をお祈りいたします。

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp
